

2021年3月実績概要（メモ）

（2021. 4. 20）

エチレンほか各誘導品の生産は、定修規模差や稼働率要因から多くが二桁台の伸びとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 565,900トン

前月比 +16.4% (+79,900トン)
前年同月比 +24.8% (+112,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+10.7%	-
定修要因等	+3.2%	+15.8%
能力増減	-	-
稼働率変動	+2.5%	+9.0%
生産増減率	+16.4%	+24.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.6%* → 当月95.6% ← 前年同月88.7%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月2社2プラント

令和2年度(会計年度)エチレン生産量 6,039.5千トン、前年度比 ▲3.9%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加や稼働率要因からLDPE、HDPE、PP、SM、MMAモノマー、AN、ベンゼン、キシレンなどの12品目がプラス。塩ビ樹脂、SBR、BRなどの5品目は主に定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からLDPE、HDPE、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの14品目がプラス。PS、塩ビ樹脂、キシレンの3品目のみはマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、春定修による定修規模の増加がある一方、日数の増加と稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。

前年比では、定修規模の縮小と稼働率要因等からLDPE、HDPE、PPでプラス。PSは稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、個人消費が厳しいながらも上向きの動きが見られるとともに製造業においても増産傾向が進む中、汎用樹脂の出荷は、営業日数の増加や原料情勢も相俟ってLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂で大幅なプラスとなった。

前年比では、前年が新型コロナウイルス感染拡大から、製造業の生産活動、飲食等のサービス産業において影響が出はじめたこともあり、樹脂の出荷も弱含みはじめた。これに対して、当年はLDPEではフィルム分野、加工紙分野、HDPEでは中空成形分野など主力分野の出荷が増加した。また、PPでは、射出成形分野とともに押出成形分野の出荷が大きく増加したほか、PSでは包装分野を中心に各分野で出荷が増加し、いずれもプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、海外市況動向、期末要因等が合わさり、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラス。

前年比では、引き続き増加基調で推移していることに変わりはなく、LDPE、HDPE、PSでプラス。PPのみがマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、PP、PSで減少。HDPEは僅かに増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂で低下した。在庫水準としては、HDPEはほぼ適正、LDPE、PP、PSはタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LDPE	▲10,000	3.1	2.7
HDPE	+3,100	3.1	2.9
P P	▲36,200	2.5	2.3
P S	▲12,600	1.5	1.2

以上

前月からの修正を*で付記